



茂樹年譜略

大槻文庫

天明五年乙巳九月九日陸奥一關府下小生れ小字
 と陽之助といふ同七年甫三歳少く家翁と共小江戸
 材本町の徳居小寺に寛政七年乙卯甫十歳より
 愛宕下土岐大和守家老毛受幸助湯山先生に塾小入る居るとハケ年より享
 和三年癸亥正月十七日甫十九歳家翁公歿す同日姓
 大槻氏沿同道より濱海道タリに總常陸を経て陸奥仙臺
 へ到り去る舊里一關へ到り再仙臺に北陸道出羽越

土岐公徳川氏
旗下ナリ

後越中加賀能登越前若狹近江を経て山城
平安へて攝津大坂有馬を経て山陰道丹波丹後
但馬伯耆因幡出雲石見を経て大門の関を首
九州徳豊前大宰より豊後日向大隅薩摩肥後を経て
遊覧し其秋肥前老翁小引り遊學する年餘し
文化元年甲子冬十二月二旬老翁昔は二年乙丑
二月休賀を経て筑後筑前を経て再び大門へ歸り
山陽道周防安藝備後後中を経て備前の見島へ
四國、海、濱、横、波、河、波、を、経、て、淡、路、を、經、り、夫、より、

播磨兵庫より再び大坂に到り和泉河内大和紀伊を経て

再上京して東海道近江伊勢尾張美濃河を江駿河
伊豆相模を経て武蔵に入る遊歴凡そ二十五年其
間五十五ヶ國を以て江戸本拠丁の偽居小傳る
實小同年秋九月九日余を生れ日なりて甫廿一歳あり
此月廿六日参政 治本 公の月之儀多糸早速 御冠形へ
張出紙差紙到事即刻張出り公人三才瘡治後報に
修付同年十一月十五日家翁公歿す上女方廣其後醫中其
の女を娶ふ甫廿四歳之同四年丁卯六月十二日参政 老治
土佐

文政八年乙酉夏五月廿日

大槻三幹茂撰五

息女 八代

花七年庚午二月十八日本松河幸女原小
高尾居子生る高文政八年乙酉南十二宗
左文政七年甲申十二月廿九日薩摩公子孫御
侍女八代の御子孫御

息男 玄東

幼名棟
實名と氏棟

文化十年癸酉八月七日本松河出る文政二年乙卯南七宗
父組と元子宗純尚在所の高尾居子後る同三年庚辰
南八宗同衛在る高尾居子門下の同六年癸未南
十宗同南八宗同丁酉高尾居子門下の同九年癸酉南
不略一宗と元子宗純の同十二年乙酉南十三宗同

和氣行藏